

コロナ禍における海外コンサルタントの奮闘(その3)

国際委員会 氏家 寿之 | UJIIE Toshiyuki

はじめに

いまだに新型コロナウイルスの新規感染者が確認される日々が日本及び世界各国で続いており、収束の兆しは見えません。2020年末には英国や南アフリカなどで変異株が確認され、感染拡大防止のために、再度、厳しい行動制限を課す国も出てきています。このような状況でも海外コンサルタントは、現地への帰任や渡航を順次再開しており、各地で活動を続けています。

本稿では、引き続き国際委員会で集めたコロナ禍での海外コンサルタントの奮闘ぶりをご紹介します。

コロナ禍での対応状況

現地への渡航にも一苦労

実施中プロジェクトへの従事のためスリランカへの渡航を予定していましたが、直前になって入国に際してビザの事前取得が必要と判明し、出発前日に大使館に駆け込みました。本来は事前の電話予約が必要でしたが、コロナ禍で空いていたため、何とかビザを発給して頂けました。

スリランカに到着後は、近くにいた乗客と5人ずつ一組にされて健康確認が行われました。機内で配られた健康確認書類(2種類)を記入していない人は、健康確認時点で記入させられました。書類の記入、検温、PCR検査とその結果確認を5人全員が終わるまで、結局約3時間かかりました。健康確認が行われたのは格納庫のような建物で、エアコンはありません。



写真1 感染対策を行っている工事現場

せん。朝方の到着であったため何とかしのげたものの、昼間であったら耐えられなかったものと思われます。

その後はターミナルビルに移動して、隔離先ホテルの決定を待ちました。ここで同乗していた韓国人団体客の一員と間違われたため、隔離先ホテルに到着した後、宿泊予定名簿に載っていないことが判明。しかし、何とか部屋をやりくりしてもらい宿泊出来ました。隔離先のホテルは、コロナ対策のためアメニティや洗濯サービスがありませんでした。歯磨きセット、シャンプー、洗剤等の最低限の日常の生活用品は持参した方が良いでしょう。渡航するだけでも、ひと苦労でした。(スリランカ国下水処理場建設事業、円借款)

突然のロックダウン宣言と新たな仕事のやり方の模索

フィリピンの首都マニラでは2020年3月17日、コロナの新規患者数増大を受けて、突然、大統領府によりロックダウンが宣言されました。勤務中にプロジェクトマネージャーより「道路が封鎖され帰宅できなくなる可能性が



写真2 マスク着用での会議

あることから、至急帰宅するように」との指示があり、必要な書類などを持って急遽、帰宅しました。街には軍が検問所を設置し、移動や外出を完全に制限。人口密度の高いマニラにおいても、まさに街から人が消える状態となりました。その後、対応が不明なままでしたが、ホテルからできる限り作業を進めたところ、結果的にテレワークの体制が構築されていきました。2020年5月に一旦帰国しましたが、マニラのロックダウンが解除され、業務が徐々に再開されたことを受け、同年10月にフィリピン政府の要請を受けて再渡航。現在はGCQ(General Community Quarantine:一般的なコミュニティ隔離措置)という密を避けるルールの下に業務を進めています(写真1)。

個別の作業はテレワークにて集中して進め、必要に応じて現場や事務所にて勤務を行うという新しい仕事のやり方で現場対応を進めています。(フィリピン国鉄道建設事業、円借款)

感染を乗り越えてプロジェクトを継続

ネパール国カトマンズでは2020年3月末～7月中旬、そして8月中旬～9月上旬にかけて2度ロックダウンがなされましたが、感染症対策を講じながら工事は進められました。具体的には、工事事務所区域への入所時(毎朝)の検温、事務所入室時の手の消毒(消毒用アルコール常備)、マスク着用の義務化(写真2)、こまめな部屋の換気・消毒の奨励などに取り組みました。しかし、現地政府関係者に新型コロナウイルスへの感染者が確認され、工事事務所でも10月下旬のダサイン祭り休暇の際、施工監理要員に感染者が確認されました。その後の検査で、事務所関係者約40名のうち日本人を含む約



写真3 宿舎でのPCR検査(検体採取)

6割の要員に陽性反応が出ました。多くの方は無症状でしたが、軽度な症状が見られた要員も含め陰性が確認されるまでの2～3週間は自宅待機(1名は入院)となりました。対策を講じていたものの昼食時などでの感染が疑われ、食事時間の分散や更なる換気の実施などの対策をとることとなりました。

このような状況下で、11月中旬にプロジェクト従事のためネパール入りしました。渡航に際しては入国前72時間以内のPCR検査による陰性証明取得が必要とされ、その証明書をもって週1便運行されていたネパール航空の直行便に搭乗。同便は帰国する同国人を中心にほぼ満席でした。同国到着時には空港内での検査はなく、比較的スムーズに入国出来ました。入国後は宿舎で隔離期間を過ごしましたが、到着4日後に宿舎まで検査者を呼びPCR検査を実施し(写真3)、陰性であることを再確認しました。その後隔離期間を経て出勤した事務所では、事務所内で拡大し収束した感染の状況を踏まえ、改めて各自がそれぞれ感染症対策を取りながら業務を進めていました。最大限の感染防止対策を講じた上でプロジェクトを進めていくことが、関係者に求められていると強く感じました。(ネパール国道路建設事業、円借款)

おわりに

2020年12月から欧米諸国などでは順次ワクチンの接種が開始されています。2021年2月には、日本でもワクチンの接種が開始されました。感染拡大が収束に向かい、従来のように海外渡航や現地での業務が出来るようになることを祈っています。